

消防学校だより

令和元年 11月号

発行年月日 令和元年 11月 25日
発行 宮崎県消防学校

★第 25 期救急科

10月23日より始まった救急科も折り返しを過ぎました。

各種医学用語に翻弄されながらも、救急科生 31名は一生懸命、授業に取り組んでおります。

宮崎大学医学部での解剖実習等も終了し、救急業務へ対する意識も変わったことと思います。

口腔内異物除去シミュレーション



吸引器の取扱



心電図モニターを見ながらの容態観察



経鼻エアウェイの挿入訓練



喉頭鏡、聴診器取扱訓練



ストレッチャー取扱訓練



★緊急消防援助隊九州ブロック訓練

11月9日(土)・10日(日)で、高原町をメイン会場に緊急消防援助隊九州ブロック訓練が行われました。

この緊急消防援助隊九州ブロック訓練は、阪神・淡路大震災を教訓に創設された緊急消防援助隊が東日本大震災、熊本地震、九州北部・西日本豪雨、平成30年北海道胆振東部地震など、国内で発生した大規模災害に迅速かつ的確に対応するため、緊急消防援助隊の応援等の要請等に関する要綱、及び緊急消防援助隊の運用に関する要綱、各県応援、受援計画に基づき実施されました。

消防学校もサテライト会場として、座屈倒壊建物からの救出訓練、倒壊建物からの救出訓練等が行われ、大分県隊、鹿児島県隊、沖縄県隊が到着し、各訓練ブースにて訓練を行いました。

鹿児島県隊



大分県隊



沖縄県隊





訓練運営員

サテライト会場訓練統括
宮崎市消防局 黒木司令・野中司令補



★第 20 回九州地区国際消防救助隊合同訓練

11月10日(日)・11日(月)で本県初開催となる、第20回九州地区国際消防救助隊合同訓練が行われました。

事務局(宮崎市消防局警防課)は1年まえから調整を行い、九州各県からの国際消防救助隊員の受入準備を行っていました。

国際消防救助隊登録隊員は高原町での緊急消防援助隊訓練終了後、14時30分に消防学校へ集結し屋内訓練場をベースキャンプとして一泊二日の訓練を実施しました。



部隊集結



訓練指導員



訓練説明 井内士長

訓練隊員個人装備点検



現場指揮本部（宮崎市消防局）
村角警防課長補佐

瀬戸長警防課長

訓練運営員



会場 B-1a

訓練想定 RC造2階建て家屋が地震により座屈倒壊して1階部分が圧壊している。要救助者が数名いる。
進入経路は、倒壊により一部見えている2階部分床面のみ、北及び西側は周囲の建物の倒壊によりアプローチ困難。南側はB-1bのサイトが活動中。
近所の住民によると、被災直後は呼びかけに反応があった。三人家族が住んでおり現在も連絡が取れない。



サーチングホールを開け、内部の様子をファイバースコープにて確認



クリーンブリーチングにて開口部の設定



開口部より1名救出



訓練運営員



会場 B-1b

訓練想定 RC造2階建て、家屋が地震により座屈倒壊して1階部分が圧縮している。要救助者が数名いる。進入経路は、南側からのみ、高さ約2m×幅2m×奥行き約3mの空間の奥に侵入できそうな開口部がある。北及び西側は、周囲の建物の倒壊によりアプローチは困難。近所の住民によると、被災直後は呼びかけに反応があった。三人家族が住んでおり現在誰とも連絡が取れない。

構造物の破損状況確認とともに関係者への聞き取り。要救助者への声かけは英語で実施。



ムービングにて重量物移動 (L字ブロック 2 t)



ショアリングに使用する角材のカット



補強材を入れて構造物の安定化を行った。



会場 A-1a

訓練想定 RC(4F/B1F)雑居ビルが倒壊し、建物内に数名要救助者が取り残されているもの。周囲の建物等座屈しており、建物東側以外は建物の接近はできず、建物内への進入経路については、主訓練棟東側1カ所のみ





ムービングによる重量物移動訓練



開口部に亀裂があるためショアリングを行った。



低所から高所への救助活動

救出用のブリッジ線を、下部支点は自然木に、上部は訓練棟アンカーにプーリーとブルジコードで三分の一システムを作成しての張り込み



国際消防救助隊で行うロープレスキューは、アメリカ方式を採用していました。理由は、国際救助隊は警察や海上保安庁の職員との合同チームであり、手技の統一を図るためだそうです。(指導員談)

訓練を見学に来た都城市消防職員 研究熱心です。

閉会式

開催地消防局長あいさつ：杉村 宮崎市消防局長



九州地区の国際消防救助隊登録隊員



2 日間にわたる訓練を終えた同期生（初任科第 38 期）
訓練開始前



訓練終了、閉会式後



★宮崎地区屋内消火栓操法大会

11 月 19 日（火）、宮崎地区屋内消火栓操法大会が消防学校で行われました。
各事業所から 43 チームの自衛消防隊が出場し、日頃の訓練の成果を披露していました。



12 月の主な行事予定

12 月 16 日（月）～20 日（金） 第 17 期危険物科

宮崎県消防学校

担 当:伊豆元 優一(いずもと ゆういち)

電 話:0985-56-0555 FAX:0985-56-1475

E-mail:shobou-s@pref.miyazaki.lg.jp